

農商連携による地元産良質小豆を使い南信州和菓子作り事業

取り組みに至る背景・事業の目的

伊那谷の屋台獅子最中のお菓子を、南信州産のもち米と小豆を使用した地産地消のお菓子にする為、下伊那農業普及センター、飯田市農政課のお力を借りて飯田市下伊那の中山間地、3地区に於いて小豆の試験生産に入った。

地元産良質小豆の確保に向けて、農商連携による地産地消体制を築きながら、小豆生産量2,000kg目標の早期達成と、品質のバラツキを無くし高位安定のために、小豆自動選別機を導入して、選別作業の手作業からの解消と小豆品質の確保を図り、そして吟味した小豆で今後の南信州の和菓子作りに役立てる。

事業内容

地元産材料による菓子作りに必要な小豆の生産拡大及び品質向上に向けて、小豆自動選別機を導入して選別作業の効率化を図り、農商が連携して遊休荒廃地の解消と小豆の地産地消を推進した。

事業効果

この小豆を利用して今年のお練祭りの際屋台獅子最中を地元産小豆使用と銘打って販売できた。

小豆自動選別機を導入した事で、生産者、使用者両方共導入の目的は達成出来たと思われる。

- 小豆選別能力 30～50kg/1h
- 小豆生産者 31名(112a) 総生産1,400kg
- 選別者人数 18名(少量生産者は機械選別を行わなかった)
- 選別実績 1,100kg
- 選別効果 異形小豆、小石、ゴミ等の異物に対してほとんど除去出来た
- 機械使用者の声
 - ・高齢者の為選別に時間がかかったが、機械選別ではとっても楽であった。
 - ・来年はもう少し生産量を増やしても良い。
 - ・選別時間が半分以下でとっても楽であった。
- 小豆利用者
 - ・前年よりも製品が一定していて使い良かった。
 - ・製品が安定していればこれからも使っても良い。(異物混入が無い)



【小豆選別中】



【地元産原料による最中の販売】

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 苦労した点
 - 生産者(耕地も含)を増やす事、小豆の不出来(生産地域の違いによる、優良種の確保)
- 工夫した点
 - マルチの導入(一部の人)、耕作指導の徹底、耕作地の違いによる播種時期を変える。
- 今後の取り組み
 - 生産者の数、耕作地の確保、生産意欲を保つ、生産者同士の交流と連携、生産者とお店との交流、小豆作りの講習会(播種から生産までの各時期毎に)、生産組合の確立
- 使用店
 - 地産地消の表示販売、新しい菓子の創作及び販売

【選定のポイント】

小豆生産農家が増加し遊休農地減少につながるきっかけとなるとともに、地元産の良質な小豆を確保できるようになり、お練祭りの際には確保した小豆を使用したお菓子を販売し、地域活性化の一助となったことが評価できる。また、農・商連携のリーディングケースとして発展が期待できる。

団体名 飯田下伊那菓子組合(飯田市) 連絡先 理事長 黒田 誠 電話 0265-22-1930	事業タイプ ハード事業 事業費 1,620,000円 支援金額 1,080,000円
--	--